

自己評価報告書

令和5年度 中央区立月島第一幼稚園 自己評価報告書																																													
学校（園）名：中央区立月島第一幼稚園 所在地：中央区月島4-15-1																																													
校（園）長名：嶺村 法子																																													
児童（生徒）数 77 学級数 5 教員数 7 職員数 17																																													
1 重点目標の達成状況及び取組状況 ○令和5年度現在、在籍数77名、回答数72で、回収率93%であった。 ○評価の尺度は、1：十分に達成している、2：達成している、3：改善を要する、4：緊急に改善を要する、5：わからない、である。 ○今年度も google form で実施した。その内、54名が記名、18名が無記名での回答となった。																																													
重点目標1 自分で考え、進んで行動できるようにする。 ← 自分が大好き ◇保護者評価 重点目標1 自分で考え、進んで行動できるようにする...を要する・緊急に改善を要する・わからない <table border="1"> <caption>保護者評価データ</caption> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>十分に達成している</th> <th>達成している</th> <th>改善を要する</th> <th>緊急に改善を要する</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。</td> <td>43</td> <td>27</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。</td> <td>46</td> <td>26</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>評価指標3 教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。</td> <td>46</td> <td>24</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ◆教員評価 【評価指標】（成果及び取組の状況） <table border="1"> <caption>教員評価データ</caption> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> < 達成状況・取組状況 > ○評価項目①「基本的生活習慣の定着」について - 保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している を合わせて97%、3;改善を要する が2名であった。3と答えている保護者もいることから、個々の幼児の取り組みの様子をより丁寧に伝え、課題解決に向けた具体的な方策を保護者と共有し、連携して成長を見守っていく必要がある。 - 教員の自己評価では、年齢や発達に応じた日々の指導の成果が見られ、幼稚園生活の流れの中で必要なことはほとんどの幼児ができていると評価している。引き続き、一人一人に応じた丁寧な指導、援助を行い、基本的生活習慣の定着を図るとともに、幼児が園生活に見通しをもち、自分から行動できるようになる生活の流れや、発達に応じた活動の提案、表示の仕方を意識し、さらに工夫していく。 ○評価項目②「運動遊びへの意欲」について - 重点目標の中で一番保護者評価が高く、1：十分に達成している、2：達成している を合わせて100% であり、本園の運動遊びの取り組みが保護者に伝わった成果と考えられる。幼稚園公開で幼児が運動遊びに取り組む様子を見てもらったことや、校庭や屋上、体育館などの広い場を使っのびのびと運動遊びに取り組んでいる様子を園務支援システム「ルクミー」を使い、写真を取り入れながら発信したことが、運動遊びに対する関心を高め、高い評価につながったと思われる。		評価項目	十分に達成している	達成している	改善を要する	緊急に改善を要する	わからない	園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。	43	27	2	0	0	運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。	46	26	0	0	0	評価指標3 教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	46	24	0	0	0	評価指標	A	B	C	D	園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。	4	1	0	0	運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。	1	4	0	0	教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	4	1	0	0
評価項目	十分に達成している	達成している	改善を要する	緊急に改善を要する	わからない																																								
園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。	43	27	2	0	0																																								
運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。	46	26	0	0	0																																								
評価指標3 教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	46	24	0	0	0																																								
評価指標	A	B	C	D																																									
園生活に必要なことが習慣として身に付き、自分から行っている。	4	1	0	0																																									
運動遊びに進んで取り組み、自分たちの遊びに取り入れて繰り返し楽しんでいる。	1	4	0	0																																									
教師の話を聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	4	1	0	0																																									

- ・一方、教員の評価は2が最も多く、意図的、計画的に運動遊びに取り組んできた成果は感じているが、暑さのため外に出られない日が続いたり、行事への取り組みを優先したりして、思うように運動遊びを取り入れられない時期があったため、学級や学年の人数に応じた運動遊びが十分にできるよう、さらに工夫し、改善していきたい。

○評価項目③「規範意識の芽生え」について

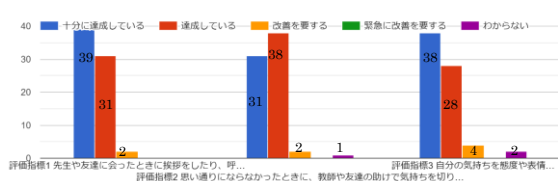
- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて97%、3：改善を要する が2名であった。評価項目①と同様に、3と答えている保護者がいることから、発達や学年に応じた「場にふさわしい行動」について具体的な姿を示し、成長を感じられるように伝えていく必要がある。
- ・教員の評価としては、今年度は、年長児の入園式への参加や、全園児参加の開園70周年記念式典があったことで、改まった場での行動の仕方について経験することができ、場や状況に応じて、自分で判断し、行動する姿につながったと感じている。

重点目標2 多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む。 ← **遊びが大好き**

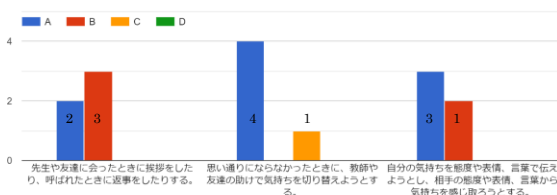
◇保護者評価

◆教員評価

重点目標2 多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む。 評価項目1
挨拶をする心地よさを感じられるよう、教師が率先し...する・緊急に改善を要する・わからない



【評価指標】（成果及び取組の状況）



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「あいさつの励行」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて97%、3：改善を要する が2名であった。保護者会や学級懇談会で、保護者自身が手本となる大切さについて繰り返し伝え、協力して取り組んできた成果が出ていると考える。引き続き教職員がモデルとなって、誰とでも気持ちのよいあいさつを交わせるようにしていく。

○評価項目②「葛藤する気持ちの調整」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて95%、3：改善を要する が2名、5：わからない が1名であり、教員の評価との間にギャップがある。降園時や学級便り、「ルクミー」などで、具体的な葛藤場面から、幼児なりに気持ちを切り替え、乗り越えていく様子を伝える努力をしてきたが、幼児の心の成長を保護者一人一人に、より丁寧に伝えることが必要である。

○評価項目③「気持ちの伝え合い」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて91%、3：改善を要する が4名、5：わからない が2名であった。発達に応じた自分の気持ちの表現の仕方や伝え方について、保護者への発信が不足していたと感じる。幼児の気持ちを受け止め、橋渡しの仕方を工夫しながら、具体的な場面を保護者に伝え、成長を感じてもらえるようにしていきたい。

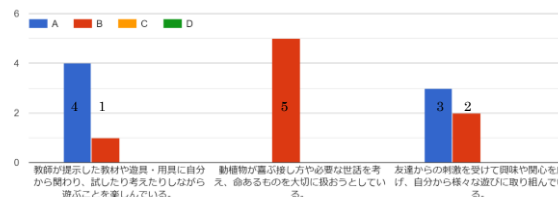
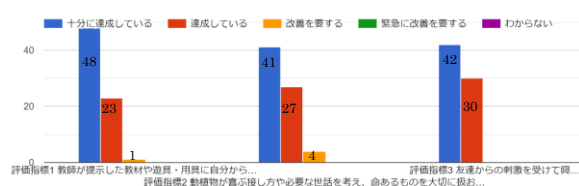
重点目標3 好奇心や探究心を引き出し、思考力の芽生えを育む。 ← 友達が大好き

◇保護者評価

◆教員評価

重点目標3 好奇心や探究心を引き出し、思考力の...を要する・緊急に改善を要する・わからない

【評価指標】（成果及び取組の状況）



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「試行錯誤する楽しさ」

- ・保護者評価が1：十分に達成している、2：達成している 合わせて98%、3：改善を要する が1名であった。これまでの園内研究で学んだことを活かし、製作遊びを充実させてきたことや、繰り返し取り組んだり挑戦したりできる環境を工夫したこと、様々な素材、道具を遊びに取り入れたことで、幼児が自分のしたい遊びに夢中になった取り組む姿につながった。また、降園時に保護者に幼児の作品を見てもらう機会を設けたり、「ルクミー」や玄関掲示等で、取り組みの過程や育っている力を知らせたりし、情報発信を続けた成果であると考えられる。

○評価項目②「動植物からの豊かな学び」について

- ・保護者評価が1：十分に達成している、2：達成している 合わせて94%、3：改善を要する が4名であった。教員評価でも、1の教員がいないことから、昨年度に引き続き改善を要する項目である。幼児の生き物への関心が継続し、学びにつながる環境作りが課題である。
- ・今年度は、開園70周年記念事業として、ガーデン作りに取り組んだことで、身近な自然に興味をもち、自分から水やりをしたり、生長を気に掛けたりする姿につながった。また、月一園や園庭のプランターなどで収穫した野菜を調理、会食する機会を計画的にもつことで、食育につながったことは評価できるため、継続していきたい。

○評価項目③「集団での切磋琢磨」について

- ・重点目標1の評価項目②と同様、重点目標の中で一番保護者評価が高く、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて100% であった。特に、うきうきスポーツデーやステージ、ミュージックデーでは、特集号で全学年の取り組みの様子を伝えたことや、全学年のプログラムが見られるように会場や時程を工夫したことで、幼児同士が互いに刺激し合って、みんなで取り組んでいる様子が伝わった成果と考えられる。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<達成状況・取組状況>

- ・設問1「幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている」で、3と4の評価が9.7%、設問4「教職員は協力して、あたたかく幼児の指導にあたっている」で、3と5の評価が5.1%であった。幼児や保護者が安心して幼稚園に通えるように、一人一人と丁寧にかかわり、必要な指導を行ってきたが、本結果を真摯に受け止め、全教職員でより一層、丁寧で

あたたかい指導の仕方について話し合い、個に応じた細やかな対応に努めていきたい。

- ・設問16「保護者は幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている」で、3と5の評価が4.1%であった。昨年度より、4.4ポイント減り、1と2の割合が増えている。行事の手伝いを募ったり、開園70周年記念事業などを通して親子で取り組める活動を取り入れたりしたことで、保護者が幼稚園に足を運ぶ機会が増えたことが高い評価につながったと考えられる。

3 今後の改善方策

<重点目標Ⅰに対して>

- ・園内での生活習慣について、教職員が学年毎の目指す姿と指導方法について共通理解し、きめ細やかな指導ができるようにする。また、学級懇談会や個人面談などを活用し、基本的な生活習慣をどのように身に付けさせていけばよいか、発達に応じて具体的に伝え、家庭との連携しながら定着を図っていく。
- ・運動遊びについては、研修会などで得た情報を共有するなどして全教員で教材研究を行い、教員の指導力を高め、時期や学級の実態、人数に応じた運動遊びを取り入れる。また、幼児に経験させたい内容を明確にし、活動の精選を行いながら、運動遊びに取り組む時間を確保するとともに、成果の発信に努める。

<重点目標Ⅱに対して>

- ・葛藤する気持ちの調整や自分の気持ちの伝え方については、発達段階や個性があり、人と関わる力を育むためには、それらを踏まえた対応が大切であることを個人面談や毎週水曜日の降園時に、保護者一人一人に丁寧に伝え、個々の育ちを共に喜べるようにする。

<重点目標Ⅲに対して>

- ・幼児が生命の尊さに気付き、生き物を大切にする気持ちや態度が身に付くように、教員自身が生命を大切にする意識をしっかりともち、慈しみ育てる姿を見せるとともに、飼育・栽培物の精選、幼児の関心が継続する置き場所や掲示等の工夫を行いながら、幼児と共に、飼育活動、栽培活動を進め、幼児自身の気付きを促し、豊かな学びにつなげていく。

<Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通>

- ・重点目標に掲げている指導内容と各学年の幼児の姿について、園だより、降園時の話、HOIKUトークデー、ルクミー等の様々な機会を活用して保護者に発信し、幼児の育ちを共有し喜び合える時間をもつことで、親子の成長を支える。
- ・保護者が幼児の成長を感じられるように、写真を活用したり、幼児の作品など実物を見る機会を設けたりするなど、分かりやすい情報発信の仕方や伝え方を工夫する。

<重点目標以外の評価に対して>

- ・未就園児の保護者を含め、保護者一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら信頼関係を築き、安心して預けられる園、相談しやすい園を目指し、子育ての支援につなげる。